

令和3年5月9日

生徒の皆さん

広島市立基町高等学校

校長 横山尚司

基町高等学校開校日について

5月9日は基町高等学校の開校日です。基町高等学校は、1949（昭和24）年5月9日、田中浩造校長以下教職員38名、生徒621名が、旧広島市立城北高校の集会所に集合し、校長から「広島県広島基町高等学校の開校宣言」があつて、本校の歴史の1ページが開かれました。当時、広島市内には12の公立高校がありました。その12の高校がGHQから出された広島県教育委員会への勧告により「総合制・学区制・共学制」の3原則に基づいて、5つの新しい高校（市立2校、県立3校）として再編成されました。総合制としては普通科・生活科・商業科の3課程をもち、学区は基町・白島・牛田など、商業科は元安川東の地区とされ、男女生徒の区別は一切つけないという共学制となりました。つまり当時、基町・白島・牛田に住んでいた者が機械的に集められ、基町高校の生徒になったわけです。だから開校当時は、教職員も生徒も市内各校からの寄り合わせであり、制服も種々雑多でありました。そのような状況の中、市内5校の中で最も早く、6月中旬には現在の校章がつくられ、基町高校は一つにまとまったのです。

校章には本校ゆかりの植物である梧桐（あおぎり）の実がデザインされました。校章を着用し始める日には、初代田中浩造校長より、「梧桐は、植物の中でも高貴なる樹である。その故に、樹上には鳳凰がきたり宿るといわれている。梧桐が本校の象徴であるからには、ここに学ぶ諸君を鳳凰になぞらえることができる。諸君一人ひとりが鳳凰たる自負と襟度をもって心身錬磨に精励されたき」旨を訓示されました。以来、基町高校は、2万8千人を超える優秀な卒業生を輩出し、大きな発展を遂げています。

明後日で、基町高等学校は、開校以来72年を迎えます。新型コロナウイルス感染症拡大の不安はまだ続いており、先が読めない状況ではありますが、今こそ、校訓の「自主自律」のもと、自分が今やらなければならないことは何なのかをしっかりと考えて行動してください。これからの基町高校の歴史を創るのは君たちです。決意を新たに学業や様々な活動に努力を重ねていってください。期待しています。